

高大連携講義におけるキャリア教育の実践 ー OPP シートと Web 調査の内容を中心にしてー

Effects of Career Education in High School-University Collaboration Class:
Mainly Focused on the OPPA and Web Questionnaire

原 瑞穂* 堀 哲夫
HARA Mizuho HORI Tetsuo

要約：「キャリア教育」という文言が文部科学行政関連の審議会報告等で初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」である¹⁾。以降、様々な取り組みがなされてきたが、キャリア教育の内容や評価水準については統一的な基準がないのが現状である。本研究では、筆者が担当した、山梨高大接続研究会により企画された高校生に対するキャリア教育の授業構成や内容の妥当性を検証した。具体的方法として、OPPA 論 (One Page Portfolio Assessment)²⁾ を使用し、アクティブ・ラーニングを導入した。

キーワード：キャリア教育、OPPA 論、アクティブ・ラーニング、授業効果

1 はじめに

1-1. キャリア教育の内容と評価

平成11年、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」に「キャリア教育」という用語が公に登場して以来、若者の自立に関するアクションプランなど多くの施策が実施されてきた。平成23年には、中央教育審議会がキャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義したが³⁾、その理由として、教員の受け止め方や実践の内容・水準にはばらつきがあることを課題とし、今後、キャリア教育の本来の理念に立ち返った理解が必要であるとしている。その後、キャリア教育は小学校、中学校から高等学校、大学まで義務化されたが、答申に定義される「必要な基盤となる能力や態度」とはどのような能力・態度であり、それらを「育てることを通して、キャリア発達を促す教育」とはどのような方法を用いて行うものなのか。キャリア教育の現状は、小学校、中学校、高等学校、大学において担当の教員に委ねられており、それぞれが目指す能力・態度や目的も異なり、職業指導的な内容から、独創的なものまで多種多様である。このようなキャリア教育の授業内容の妥当性や授業効果に関する明確な評価基準はないのが現状である。

1-2. 取り組みの経緯と目的

この度、筆者は、山梨高大接続研究会により企画されたYAMANASHI—WAYの第2回目に「生き方を考える—高校から大学、そして社会へ」と題し、高校1年生57名を対象に講義を担当した。講義に際し、キャリアの意味を理解し、講義の必要性を感じ、自身のキャリアを実感として捉え、職業観育成の一つの機会として本講義を意味のあるものにしたいと考えた。講義は1回限りであるた

* 山梨大学キャリアセンター

め、短い時間でキャリアを理解し、キャリアを意識して生活することの大切さを感じてもらう必要があった。そこで、アクティブ・ラーニングを導入し、キャリアの外的・内的要因双方からのアプローチの必要性を知ることから始まり、まずは現時点の自己を客観的に知ること、その先のキャリアへの意識につなげることを目的とした。また、その授業構成や内容の妥当性を検証した。

2 方法

2-1 実施内容

筆者が担当したキャリアの講義は、山梨高大接続研究会（以下、高大研）により継続育成型プログラム開発のために企画されもので、年間4回の開催予定の内、第2回目であった。参加者は、研究校（11校と希望する高校）からそれぞれ希望者を募り、各高校から選考された生徒が受講するものであった。実施概要は以下の通り、参加者数を表1に示す。

【実施概要】YAMANASHI—WAY 継続型育成プログラム第2回

テーマ：『生き方を考える—高校から大学、そして社会へ—』

日時：平成30年9月22日（土曜）、10：00～12：30

会場：山梨大学工業会館3階

参加者：山梨県下の高校生57名、高校教員4名、大学関係5名。

内容：第1部30分「南極ゴミ撤去 県人が一役」生命環境学部教員

第2部90分「生き方を考える—高校から大学、そして社会へ—」筆者担当

まとめ30分 担当

授業構成：「生き方を考える—高校から大学、そして社会へ—」

1. 君たちが生きる現在と将来の日本
2. キャリア形成のために必要な3つの要素
3. 体験してみよう（職業興味）・（価値観）
4. これからの生き方を考える

配布資料：職業興味の結果記入シート

ホランド理論説明シート

OPPシート²⁾、

表1 参加者高校別人数

高校名	参加者数	男	女
甲府東高校	6	2	4
日川高校	6	5	1
甲陵高校	2	1	1
巨摩高校	7	5	2
都留高校	8	6	2
甲府昭和高校	5	4	1
身延高校	5	3	2
甲府南高校	6	1	5
山梨高校	3	2	1
吉田高校	3	2	1
甲府第一高校	3	3	0
北杜高校	3	1	2
合計（人）	57	35	22

2-2 使用ツール

このプログラムの実施にあたり、講義内容が生徒たちにどのような効果をもたらすのかを明らかにするために、OPPA（堀，2013）²⁾を使用した。その際、堀のOPPAは単元を通すものであるため複数回の振り返りを記述する欄がある。今回は1回のみの講義であるため、堀（2013）²⁾を参考にして、1回分の講義用のOPPシートを作成した。これには第二筆者の指導を受けて作成し使用の了解を得た。OPPシートについては、冒頭に使用説明とOPPA論の概要説明を行った。評価には無関係であると説明を行った。図1に、使用した1講義用OPPシートを示す。

[illegible]

図1 使用した1回講義用OPPシート(表裏)

3 結果

OPPシート提出数（57枚）と、Webアンケート回答者数（57名）を分析対象とした。

3-1. Webアンケートの結果から

このプログラムを企画した、アドミッションセンター職員のWebアンケート結果では、「生き方を考える」の講義満足度を5段階評価したものは、満足87%、やや満足13%を合わせると100%であり、良い評価であった。

次に、授業の満足度に関して「その理由と講義の感想」と「プログラム全体を通しての感想や改善点」の質問が続く。そのうち、「その理由と講義の感想」から54件、さらに、「プログラム全体を通しての感想や改善点」の内、筆者の講義内容に関する記述から44件、合計98件の文章が抽出された。この98件の内、筆者の授業内容に関する記述88件を対象に内容を切片化し、KJ法を援用して分類を行った。その結果、127件が抽出され、14の中カテゴリーと27の小カテゴリーに分類された。抽出は、生徒の考え、感じたこと、感想などが表出していると判断される表現を対象にした。Webアンケート調査であるためか、短い文の中に凝縮された表現をする者が多く、一文に重複が見られた。分類は文、文節、単語全てを対象にした。以下、表2に分類結果と学生の記述例を示す。また、カテゴリーごとの内容の説では、「」を中カテゴリー、「」を小カテゴリー、記述を<>で示す。

まず、「グループワーク」は小カテゴリーとして「周囲との関わり」、「グループ活動による成長」、「集団の中の個人の成長」の3つの小カテゴリーが、「知識習得」は、「知識の習得」、「知識から学びへ」の2つ、「楽しい学び」は「授業の形態による楽しさ」、「意味ある楽しさ」の2つ、「目標・願望」は「行動への意欲」、「自己理解への意欲」の2つ、「考えの深まり」は「よく考えた」、「考えを深めた」の2つ、「自己理解」は「自己理解への気づき」、「積極的自己理解」の2つ、「授業への評価」は「授業の意味を感得」、「授業内容への共感」の2つ、「気づき」は「一般的な気づき」、「自己への気づき」の2つ、「将来へのイメージ」は「将来を考える」、「将来への見通し」の2つ、「不安への関与」は「不安

ジティブ思考」、「不安軽減」の2つ、[コミュニケーション]は「コミュニケーション力の向上」の1つ、[自立]は「主体性の獲得期待」、「自立性」の2つ、[自信（自己効力感）]は「自己効力感の向上」の1つ、[視野の広がり]は「視野が広がった」、「視野を広げる行動」の2つがそれぞれ抽出された。表2に分類結果と生徒の記述例を示す。文章表現は原則として生徒の表記のまま転機したが、内容に影響がない範囲で省略などを行っている。

（1）グループワーク

[グループワーク]は「周囲との関わり」9件「グループ活動による成長」8件、「集団の中の個人の成長」7件、の3つの小カテゴリーに分類された。「周囲との関わり」は、＜コミュニケーションがとれて良かった＞、＜楽しく受けることができた＞など、メンバーとの関わりが上手くできたというグループワークの初歩的な段階であった。「グループ活動による成長」は、＜仲間と協力する大切さを学べた＞、＜一人一人の意見を発表できる場所＞、＜交流も深められた＞など、グループ活動によって集団の一員としての役割を意識するものであった。「集団による個人の成長」は、＜恥ずかしく嫌な気持ちもあったが、グループだからこそいいことも分かった＞、＜友達の考えも聞いて自分に取り入れることができて良かった＞、＜自分から声をかけて話すことが苦手だから、グループがあったことによってたくさん話すことができた＞など、個人の内的な成長が表出された記述も見られた。全体として浅い関わりの記述件数が多かった。

（2）知識習得

[知識習得]は「知識の習得」10件、「知識から学びへ」6件の2つの小カテゴリーに分類された。「知識の習得」は、＜学校で出てこない内容も学べた＞、＜色々な価値観を学べた＞、＜これから生きていく上で大切なことを教えていただいた＞など、未知の事柄を知った喜びであった。「知識から学び」は、＜生活に活かしたい＞、＜それなりに考えてきたと思っていたが、まだまだ沢山あることを知った＞、＜自分と周りをバランスよく考えていくことが大切＞など、授業で習得した知識を実際に活かそうとしたり、現状に満足せずさらに学びに向かう姿勢が見られた。全体として知識の習得の満足の記述件数が多かった。

（3）楽しい学び

[楽しい学び]は、「授業の形態による楽しさ」13件、「意味のある楽しさ」2件の2つの小カテゴリーに分類された。「授業の形態による楽しさ」は、＜他の高校の人とディスカッションしながら楽しく学ぶことができた＞、＜楽しい時間となった＞、＜アクティブ・ラーニングがとても楽しかった＞など、単に授業の形態による仲間との関わりを楽しんでいる様子であった。「意味のある楽しさ」は、＜楽しかったし新しい発見があった＞、＜初対面の人と話すのは得意な方ではないけど（略）考えたことなどを話し合えてとても楽しい時間が過ごせました＞など、話ができた楽しさから一歩進んで、発見や自分の課題を克服しようとするなど、楽しさの内容に意味が感じられる。全体として単純にグループワークが楽しいという記述件数が多かった。

（4）目標・願望

[目標・願望]は、「行動への意欲」9件、「自己理解への意欲」6件の2つの小カテゴリーに分類された。「行動への意欲」は、＜実現させられるように頑張ろうと思った＞、＜自分の考えに磨きをかけていきたい＞、＜今からでも行動していきたい＞など、直接行動に結びつく表現であった。「自己理解への意欲」は、＜これからどうしていきべきかを知ったり考えていきたい＞、＜見つめ直そうと思いました＞、＜考え直してみるのもありだなと思った＞など、自分自身に対する理解を深めようという、自己理解への意欲が表れたものであった。全体として、行動への意欲の記述件数が多めであった。

高大連携講義におけるキャリア教育の実践

表2 Web アンケートの内容からのカテゴリー分類

	中カテゴリ	件数	小カテゴリ	件数	記述例
1	グループワーク	24	周囲との関わり	9	ペアを作って話をしたりグループで話し合いをしたりして、人とのコミュニケーションが取れて良かった。 初対面の人とのチームワークというまと無い機会があり、とても楽しく受けることができた。 ペアやチームでの活動が多く、主体的で良いと思いました。
			グループ活動による成長	8	仲間と協力する大切さを学べた。 私たち一人一人の意見を発表出来る場所であって非常に有意義な時間でした。 グループワークやペアワークは他校の人との交流も深められコミュニケーションをとることが出来るので、新しい発見を見つけることができた。
			集団による個人の成長	7	恥ずかしく嫌な気持ちもあったが、グループだからこそのいいことも分かった。 自分だけの考えではなく友達との考えも聞いて自分に取り入れることができて良かった。 知らない人に自分から声をかけて話すことが苦手だから、グループワークがあったことによってたくさん話すことができた。
2	知識習得	16	知識の習得	10	学校で出てこない内容も学べた。 色々な価値観を学べた。 これから生きていく上で大切なことを教えていただいた。
			知識から学びへ	6	生活に活かしたい。 今まで中学校や高校で沢山将来のことを考えようと言われ、それなりに考えてきたと思っていたが、今回の講義を受けてまだまだ知らないことが 沢山あることを知った。 自分と周りをバランスよく考えていくことが大切だということを学んだ。
3	楽しい学び	15	授業の形態による楽しさ	13	他の高校の人とディスカッションしながら楽しく学ぶことができた。 楽しい時間となった。 アクティブラーニングがとても楽しかった。
			意味のある楽しさ	2	とても楽しかったし新たな発見があった。 初対面の人と話すのは得意な方ではないけど、考えたことなどを話し合えてとても楽しい時間が過ごせました。
4	目標・願望	15	行動への意欲	9	実現させられるように頑張ろうと思った。 これを元に自分の考えに磨きをかけていきたい。 私は特に今何ができるのかというところ に注目していたが、(略)今からでも行動していきたい。
			自己理解への意欲	6	自分の夢の実現のためこれからどうしていくべきかを知ったり考えていきたい。 自分のこれからの人生をよりよくするために自分自身について見つめ直そうと思いました。 今日の講義をきっかけとして、また考え直してみるのもありだなと思った。そして将来、自分の納得のいく職業につきたいと思った。
5	考えの深まり	13	よく考えた	8	いつも考えないようなことを考えられたので新鮮に感じた。 とても奥が深く、それぞれに考えさせるような内容で良かった。 考える事が多かったので頭に入っただけ楽しかった。
			考えを深めた	5	高校から大学へ、社会へとキャリアを築いていくために、何が重要であるか深く考えることの出来た良い機会でした。 これから科目の選択を控えるなか、自ら事をさらに深く知っておかなければならに改めて感じた。 自分のやりたい職業が自分にほんとに合っているのかも一度考えさせられたきがした。
6	自己理解	10	自己理解への気づき	6	自分を見つめることの大切さを知ることができた。 自分の新たな一面を知るきっかけとなった良い授業だった。 自分について知っているようで知らなかったことがわかった。
			積極的自己理解	4	今後の自分について見つめ直す機会を与えていただき、とても助かった。 自分のついでに理解が深くなればどのような進路を選択したとしても、本末転倒であるし、有意義な生活も送れないのだろうと感じた。 自分が案をしようので、内的要因を疎かにしやすいと感じ、内的要因と外的要因のバランスを取る努力をもっとしなければいけないと思った。
7	授業への評価	8	授業の意味を感得	5	有意義な時間を過ごせた。 自分にとって価値ある時間をすごせたと思う。 短い時間の中で深い内容をするのでとても有意義な時間であった。
			授業内容への共感	3	これからの進路のことについて分かりやすく作られていたのもとても良かった。 とてもよいプログラムだった。高校生の自分からはとてもびっくりな内容だと思う。 学校ではやらないような内容で面白かった。
8	気づき	7	一般的な気づき	4	人生のヒントや将来を考える重要性を学べた。 生活を見つめ直すきっかけくれたことにとても嬉しく思った。 自らの対しての価値観、理解度の重要性を感じられた。
			自己への気づき	3	自分の進路のことより前にやりたいことを見つづけることが大事だということに気づかされた。 自分が発想していなかったことはどんな事なのかわかった。 自分が将来について大丈夫など思っていたことを見つめ直すことができました。
9	将来のイメージ	4	将来を考える	2	これからの自分を想像出来た。 今一度自分の将来について考えることができた。
			将来への見通し	2	自分緒将来に関わることで、どうしていくべきなのかの目安ができた。 キャリアを築いていくために今から何をしていけばいいのかわかり少しは知ることが出来て、いっても良い経験になった。
10	不安への関与	4	ポジティブ思考	2	大学のテストが変わることに対してとても不安も大きいところから繋がっていく将来について (略) 困ったりすることもああるけれど、とりあえず自分の の興味を引かれることや、少し疑問に思ったことなどを探索して突き詰めていけばいいと思った。 これまで自分が詰まっていた点を改善することができた。
			不安軽減	2	将来につて不安でしたが、今回の講義で少しなくなりました。 高校に入学し、学校のキャリア学習などで大学進学を身近に感じた今、新入試などの不安が少しあり、将来に対して危機感を感じていた今、 この講義を受けることによって「自分らしさ」ということを身につけることができたと思います。
11	コミュニケーション	3	コミュニケーション力の向上	3	コミュニケーション、主体的にということ意識していかなければと思った。 会話において話し手と聞き手が2人とも大切なことがわかった。 人とのコミュニケーションの取り方をしっかり学ぶ事が出来て良い機会だと思います。
12	自立	3	主体性の獲得期待	2	決して周りの意見には流されることがなく、自分の思いを互いにぶつけていたりして、より良いようにしていきたい。 自分の将来は自分で判断して決めていきたいと思いました。
			自立性	1	自分の思いだけで将来を決めるのではなく周りのことも考え決めていきたいです。
13	自信(自己効力感)	3	自己効力感の向上	3	いろんな人と話せたりして、コミュニケーション能力が高まりました。 自分以外の沢山の意見を聞いて自分の価値観が成長できたと思った。 今まで自分の中であやふやになっていた考えがしっかりと地に足が着いたような感覚でこれからの生活がさらに良いものになっていくことが出来る と思いました。
14	視野の広がり	2	視野が広がった	1	受講してみても違う見方をする事ができるようになれてよかった。
			視野を広げる行動	1	就きたい職業を持つことも大事だけど、自分に向いている職業も調べてみて参考にしていきたい。
合計		127		127	

（５）考えの深まり

〔考えの深まり〕は、「よく考えた」８件、「考えを深めた」５件の２つの小カテゴリーに分類された。「よく考えた」は、＜いつも考えないようなことを考えられた＞、＜とても奥が深く、それぞれに考えさせるような内容＞、＜考える事が多かったので頭に入ったし楽しかった＞など、普段と違った内容に対して考えたという実感が表れていた。「考えを深めた」は、＜高校から大学へ、社会へとキャリアを築いていくために、何が重要であるか深く考えることの出来た＞、＜これから科目の選択を控えるなか、自ら事をさらに深く知っておかなければならにと改めて感じた＞、＜自分のなりたい職業が自分にほんとに合っているのかももう一度考えさせられたきがした＞など、学びを自分のことに置き換え、さらに深く内省していることがわかる。全体に浅い思考の記述件数が多かった。

（６）自己理解

〔自己理解〕は、「自己理解への気づき」６件、「積極的自己理解」４件の２つの小カテゴリーに分類された。「自己理解への気づき」は、＜自分を見つめることの大切さを知ることができた＞、＜自分の新たな一面を知るきっかけとなった＞、＜自分について知っているようで知らなかったことがわかった＞など、自分自身について知ることの大切さを表すものであった。「積極的自己理解」は、＜今後の自分について見つめ直す機会を与えていただき、とても助かった＞、＜自分についての理解が深くなればどのような進路を選択したとしても、本末転倒であるし、有意義な生活も送れないのだろうと感じた＞、＜自分が楽をしてしまうので、内的要因を疎かにしやすいと感じ、内的要因と外的要因のバランスを取る努力をもっとしなければいけないと思った＞など、現在の自分の状況にまで深く思考しているものであった。全体的に浅い思考の記述件数が多めであった。

（７）授業への評価

〔授業への評価〕は、「授業の意味を感得」５件、「授業内容への共感」３件の２つの小カテゴリーに分類された。「授業の意味を感得」は、＜有意義な時間＞、＜価値ある時間＞、＜短い時間の中で深い内容をするのでとても有意義な時間であった＞など、授業で伝えたいことを感得していると思われる表現であった。「授業内容への共感」は、＜これからの進路のことについて分かりやすく作られていたのでとても良かった＞、＜とてもよいプログラムだった。高校生の自分らにはとてもぴったりの内容だと思う＞、＜学校ではやらないような内容で面白かった＞など、授業を俯瞰して見ているような批評めいた表現であった。全体的に、意味を感じている記述件数が多めであった。

（８）気づき

〔気づき〕は、「一般的な気づき」４件、「授業内容への共感」３件の２つの小カテゴリーに分類された。「一般的な気づき」は、＜人生のヒントや将来を考える重要性を学べた＞、＜生活を見つめ直すきっかけをくれたことにとても嬉しく思った＞、＜自らに対しての価値観、理解度の重要性を感じられた＞など、授業により得られたヒントからの気づきであり、「授業内容への共感」は、＜自分の進路のことより前にやりたいことを見つけることが大事だということに気づかされた＞、＜自分が発想していなかったことはどんな事なのかわかった＞、＜自分が将来について大丈夫など思っていたことを見つめ直すことができました＞など、気づきを自分の問題に発展させて深く考えるものであった。全体的として同程度の記述件数であった。

（９）将来のイメージ

〔将来へのイメージ〕は、「将来を考える」２件、「将来への見通し」２件の２つの小カテゴリーに分類された。「将来を考える」は、＜これからの自分を想像出来た＞、＜今一度自分の将来について考えることができた＞など、将来について考えるきっかけとなっているものであった。「将来への見通し」は、＜自分の将来に関わることで、どうしていくべきなのかの目安ができた＞、＜キャリア

を築いていくために今から何をしていけばいいのかを少しは知ることが出来て、いっても良い経験になった＞など、将来に向けて何をすればいいのか、目安や見通しができたとうかがわれるものであった。全体的には同程度の記述件数であった。

(10) 不安への関与

〔不安への関与〕は、「ポジティブ思考」2件、「不安減少」2件の2つの小カテゴリーに分類された。「ポジティブ思考」は、＜大学のテストが変わることに対してとても不安も大きいしそこから繋がっていく将来について（略）困ったりすることもあるけれど、とりあえず自分の興味が引かれることや、少し疑問に思ったことなどを探求して突き詰めていけばいいと思った＞、＜これまで自分が詰まっていた点を改善することができた＞など、不安はあるがそれをポジティブに考えることで切り抜けようとするものであった。また、「不安減少」は、＜将来について不安でしたが、今回の講義で少しなくなりました＞＜高校に入学し、学校のキャリア学習などで大学進学を身近に感じた今、新入試などの不安が少しあり、将来に対して危機感を感じていた今、この講義を受けることによって「自分らしさ」ということを身につけることができたと思います＞など、不安が少しでも減少していると推察される表現であった。全体的に同程度の記述件数であった。

(11) コミュニケーション

〔コミュニケーション〕は、「コミュニケーション力の向上」3件の1つの小カテゴリーであった。＜コミュニケーションが、主体的にということ意識していかなければと思った＞、＜会話において話し手と聞き手が2人とも大切なことがわかった＞、＜人とのコミュニケーションの取り方をしっかり学ぶ事が出来て良い機会だと思います＞など、コミュニケーションが苦手な者が向上させたいと思う表現が多かった。全体的に、コミュニケーション力に不安がある者がグループワークを通じて、苦手ではあるが社会人として必要不可欠な能力の一つであることを、グループワークを通じて実感として感じたことであろうと想像できる。

(12) 自立

〔自立〕は、「主体性の獲得期待」2件、「自立性」1件の2つの小カテゴリーに分類された。「主体性の獲得期待」は、＜決して周りの意見には流されることなく、自分の思いを互いにぶつけていたりして、より良いようにしていきたい＞と、授業の学びから発した気持ちであり、「自立性」は、＜自分の思いだけで将来を決めるのではなく周りのことも考えていきたい＞と、決め方も自分で決めたいという授業を受けてさらに自分としてのやり方を考えている。

(13) 自信（自己効力感）

〔自信（自己効力感）〕は、「自己効力感の向上」3件の1つの小カテゴリーであった。＜いろんな人と話せたりして、コミュニケーション能力が高まりました＞、＜自分以外の沢山の意見を聞いて自分の価値観が成長できたと思った＞、＜今まで自分の中であやふやになっていた考えがしっかりと地に足が着いたような感覚でこれからの生活がさらにより良いものになっていくことが出来ると思いました＞など、以前より高まったコミュニケーション能力や価値観の習得の喜び、これからの生活を改善する自信が表現されている。

(14) 視野の広がり

〔視野の広がり〕は、「視野が広がった」1件、「視野を広げる行動」1件の2つの小カテゴリーに分類された。「視野が広がった」は、＜受講してみても違う見方をすることができるようになれてよかった＞と、他者との関わりや受講により多角的に見る方法を知ったことである。「視野を広げる行動」は、＜就きたい職業を持つことも大事だけど、自分に向いている職業も調べてみて参考にしていきたい＞と、授業で学んだ事柄からさらに広げようとしている。

3-2. OPPシートの内容から

次に、授業で使用した「1 講義用 OPP シート」の記述内容を分類した。抽出は、「受講後：あなたが、高校から大学、社会へとキャリアを築いていくために、何が重要だと思いますか。」「受講前・中・後を振り返って、何がどのように変わりましたか。そのことについて、あなたはどのように思っていますか。考えたこと、感じたこと、感想など、何でも構いませんから自由に書いてください。」「授業に対して思ったこと考えたこと、自由に記述してください。」の3つを対象にした。抽出は、生徒の考え、感じたこと、感想などが表出していると判断される表現を対象にした。複数のカテゴリーへ重複した表現は、筆者の価値観が入るのを避け、できるだけ生徒の考えに忠実に分類するために、いずれかのカテゴリーに分類した。また、授業内容をそのまま記述した表現など、自信の考えや思いを記述していない限り対象にはしなかった。そのため、生徒の記述の全てを分類したものではない。

全体で57名のOPPシートの内、57枚全てを分析対象にし、KJ法を援用して分類を行った。得られた内容を切片化し、カテゴリー分けをした。その結果、127件の記述を抽出され、15の中カテゴリーに分類された。以下、カテゴリーごとの内容を[]を中カテゴリー、「」を小カテゴリー、記述を＜＞で示す。

まず、[目標・願望]は、小カテゴリーとして「単純な願望」、「なりたい自分」、「具体的な活動」の3つが、[他者との関わり（グループワーク）]は「周囲との関わり」、「グループ活動による成長」、「個人の成長感」の3つ、[気づき]は「一般的な気づき」、「自己への気づき（授業の本質へ）」の2つ、[考え方の変化]は「授業前後の考え方の変化」、「具体的な変化の内容」の2つ、[自己理解の深まり]は「自己理解の必要性を知る」、「具体的な自己理解」の2つ、[考えの深まり]は「よく考えた」、「自己への内省」の2つ、[行動への意欲]は「行動への意欲」、「具体的な行動内容」の2つ、[自信]は「資質・能力の向上」、「認知の変容」の2つ、[コミュニケーション力]は「コミュニケーション力を上げたい」の1つ、[視野の広がり]は、「視野を広げたい」、「視野が広がった」の2つ、[客観視]は「客観視したい」の1つ、[主体性（自立心）]は「主体的に行動したい」の1つ、[不安への関与]は「ポジティブ思考」、「不安軽減」の2つ、[存在意義]は「存在意義」の1つ、[授業への評価]は「授業への評価」の1つがそれぞれ抽出された。表3に分類結果と生徒の記述例を示す。文章表現は原則として生徒の表記のまま転記したが、内容に影響がない範囲で省略などを行っている。

（1）目標・願望

[目標・願望]は、「単純な願望」5件、「なりたい自分」7件、「具体的な活動」10件の3つの小カテゴリーに分類された。「単純な願望」は、＜その幅を広げるためにも自分をもっと知り、頑張りたい＞、＜これからは変動が激しいと思うので、対応できるようにがんばっていききたいと思う＞、＜これからたくさんのことを経験し、よりよい将来をつくっていききたいと思った＞など、願望を表すものが多かった。「なりたい自分」は、＜何度失敗しても諦めないなど強い心が欲しいと思った＞、＜これから、文理、科目選択など、将来に直接的に関係のある選択をしていく必要がある中で、もう一度よく自分を見つめ、考え、知っていこうと思った＞、＜たくさんの変化がある中でも生活することができるよう社会人基礎力だったり社会に求められる力を身につけていききたいと思いました＞、など、具体的になりたい自分を表現している。「具体的な活動」は、＜これからもっと成長できるように、たくさんのことを経験し、考えていききたいと思いました＞、＜日々、積み上げているものに自分の意志をのせていこうと思いました＞、＜あたりまえが変化することは怖い。しかし、それがなければ進化はしない・自分をみつめ直し、これからのことについて今一度しんけんに考えたいと思った＞、など、なりたい自分になるための具体的な行動を表現しており、より目標達成に近づいているのが分かる。全体的に具体的な活動が多めであり、積極的に行動しようとする傾向が

高大連携講義におけるキャリア教育の実践

表3 OPP シートの記述のカテゴリー分類結果

	中カテゴリー	件数	小カテゴリー	件数	記述例
1	目標・願望	22	単純な願望	5	その幅を広げるためにも自分をもっと知り、頑張りたい。 これからは変動が激しいと思うので、対応できるようにがんばっていきたいと思う。 これからもたくさんのことを経験し、よりよい将来をつくっていきたいと思った。
				7	講演前後で、今後必要とされている能力の考え方が大きく変わった。何度失敗しても諦めないなど強い心が欲しいと思った。 これから、文理、科目選択など、将来に直接的に関係のある選択をしていく必要がある中で、もう一度よく自分を見つめ、考え、知っていかうと思った。 たくさんの変化がある中でも生活することができるよう社会人基礎力だったり社会に求められる力を身につけていきたいと思いました。
		なりたい自分	具体的な活動	10	今後は、もっと多くの人や事とふれて、自分の個性を見つけ出していきたい。 今回の講義で大学を決めただけではだめだなと感じました。これから社会に出て、生きていくうえで、自分がやりたいこと、自分がやらなければならないことを知るために、自分を客観的に見るようにしていきたいなと思った。 これからもっと成長できるように、たくさんのことを経験し、考えていきたいと思いました。このような経験をもっとたくさんしたいと思いました。 また、日々、積み上げているものに自分の意志をのせていこうと思いました。 あたりまえが変化することは恐い。しかし、それがなければ進化はない・自分をみつめ直し、これからのことについて今一度しんげんに考えたいと思った。 自分は人に物を任せることも多いので、少しずつ積極的になってみようと思った。
				12	様々な学校の人と関わり、意見を交換できてよかった。 グループワークをたくさん行うことで、関わりを持つことの重要性や自分とは違う意見を受け入れる面白さ、大切さも分かった。 グループ学習を通じて、ほかの学校の人と話することができ、新しい考えを聞いたり、自分の意見を話すことが出来て良かった。 自分の意見、自分を主張していかなくてはならないなと思った。さまざまな人の意見を聞き、刺激し合うというのむしろいいことだなと思いました。 人それぞれ価値観が違うので、肯定的になっていくことも大切だと改めてわかった。
2	他者との関わり(グループワーク)	19	周囲との関わり	1	様々な学校の人と関わり、意見を交換できてよかった。 グループワークをすることが苦手で、あまり得意ではなかったが、いざ、グループワークをやってみると自分とは違う考えや同じような考え方があり、とてもおもしろく感じた。 自分以外の意見を聞いて、自分がとても成長できたと思います。 グループワークによってより理解が深まる。相手の意見を知れると思った。知らない人と話すことは難しいけど、自分の力になると思う。
				6	グループワークをすることが苦手で、あまり得意ではなかったが、いざ、グループワークをやってみると自分とは違う考えや同じような考え方があり、とてもおもしろく感じた。 自分以外の意見を聞いて、自分がとても成長できたと思います。 グループワークによってより理解が深まる。相手の意見を知れると思った。知らない人と話すことは難しいけど、自分の力になると思う。
		グループ活動による成長	個人の成長感	12	グループワークをすることが苦手で、あまり得意ではなかったが、いざ、グループワークをやってみると自分とは違う考えや同じような考え方があり、とてもおもしろく感じた。 自分以外の意見を聞いて、自分がとても成長できたと思います。 グループワークによってより理解が深まる。相手の意見を知れると思った。知らない人と話すことは難しいけど、自分の力になると思う。
				10	グループワークをすることが苦手で、あまり得意ではなかったが、いざ、グループワークをやってみると自分とは違う考えや同じような考え方があり、とてもおもしろく感じた。 自分以外の意見を聞いて、自分がとても成長できたと思います。 グループワークによってより理解が深まる。相手の意見を知れると思った。知らない人と話すことは難しいけど、自分の力になると思う。
3	気づき	15	一般的な気づき	5	もう一度、自分について将来について考えてみようと思うきっかけになった。 「自分を知る」ということが大切だということが本当によく分かった。 職業選択へのはずみにもなり、ヒントにもなったと思う。 自分の将来についてぼんやりと考えてはいたが、今そのために具体的にしなければならぬことができていなかったということに気がついた。 自分たちの将来なめて一人ひとりが自分の意見をもち将来について調べていくことが重要だとわかった。これからの生活の中でも、今あることをさらにのび、また新しいことを身につけていき、それらをどうに生かしていくことが大切なのかをしっかりと考えていきたいと思いました。今度、大学や職業について調べていきたいと思います。自分のことについて一度見つめ直すとおもしろいと思いました。 自分のやりたいこと、できること、すべきこと、価値観。これらの合わせさと思っている仕事がある今こそ、キャリアを築くための内外的要因のバランスを保ち、見渡し、自分の希望する方向へ向かっていくための道を選定させていくために意識していこうと思いました。
				10	自分の将来についてぼんやりと考えてはいたが、今そのために具体的にしなければならぬことができていなかったということに気がついた。 自分たちの将来なめて一人ひとりが自分の意見をもち将来について調べていくことが重要だとわかった。これからの生活の中でも、今あることをさらにのび、また新しいことを身につけていき、それらをどうに生かしていくことが大切なのかをしっかりと考えていきたいと思いました。今度、大学や職業について調べていきたいと思います。自分のことについて一度見つめ直すとおもしろいと思いました。 自分のやりたいこと、できること、すべきこと、価値観。これらの合わせさと思っている仕事がある今こそ、キャリアを築くための内外的要因のバランスを保ち、見渡し、自分の希望する方向へ向かっていくための道を選定させていくために意識していこうと思いました。
		自己への気づき(授業の本質へ)		5	もう一度、自分について将来について考えてみようと思うきっかけになった。 「自分を知る」ということが大切だということが本当によく分かった。 職業選択へのはずみにもなり、ヒントにもなったと思う。
				10	自分の将来についてぼんやりと考えてはいたが、今そのために具体的にしなければならぬことができていなかったということに気がついた。 自分たちの将来なめて一人ひとりが自分の意見をもち将来について調べていくことが重要だとわかった。これからの生活の中でも、今あることをさらにのび、また新しいことを身につけていき、それらをどうに生かしていくことが大切なのかをしっかりと考えていきたいと思いました。今度、大学や職業について調べていきたいと思います。自分のことについて一度見つめ直すとおもしろいと思いました。 自分のやりたいこと、できること、すべきこと、価値観。これらの合わせさと思っている仕事がある今こそ、キャリアを築くための内外的要因のバランスを保ち、見渡し、自分の希望する方向へ向かっていくための道を選定させていくために意識していこうと思いました。
4	考え方の変化	15	授業前後の考え方の変化	9	受講前と後で、キャリアの対する考え方が大きく変わった。 自分の価値観や考え方、将来についてのとらえ方が変わった。 前と後で重要だと思えることが明らかに変化してきて驚いた。 自分が興味をもったことについて、調べ考えていったり、周囲と関わって行って、考えていくべきだと思うようになった。 受講中や後で考えてみると、「しっかりとした目的」や、「自分になにものを作る」という、自分なりの「何となく」ではない考え方を生み出すことが出来たと思います。 たとえ夢がなくても、少しでもいいから将来について興味をもち、考えを変えてみてみようと思いました。 他人や他人と自分との価値観の違いに気づき認めた上で、自分から積極的に行動しようという意識が変化しました。
				6	自分が興味をもったことについて、調べ考えていったり、周囲と関わって行って、考えていくべきだと思うようになった。 受講中や後で考えてみると、「しっかりとした目的」や、「自分になにものを作る」という、自分なりの「何となく」ではない考え方を生み出すことが出来たと思います。 たとえ夢がなくても、少しでもいいから将来について興味をもち、考えを変えてみてみようと思いました。 他人や他人と自分との価値観の違いに気づき認めた上で、自分から積極的に行動しようという意識が変化しました。
		具体的な変化の内容		9	自分が興味をもったことについて、調べ考えていったり、周囲と関わって行って、考えていくべきだと思うようになった。 受講中や後で考えてみると、「しっかりとした目的」や、「自分になにものを作る」という、自分なりの「何となく」ではない考え方を生み出すことが出来たと思います。 たとえ夢がなくても、少しでもいいから将来について興味をもち、考えを変えてみてみようと思いました。 他人や他人と自分との価値観の違いに気づき認めた上で、自分から積極的に行動しようという意識が変化しました。
				6	自分が興味をもったことについて、調べ考えていったり、周囲と関わって行って、考えていくべきだと思うようになった。 受講中や後で考えてみると、「しっかりとした目的」や、「自分になにものを作る」という、自分なりの「何となく」ではない考え方を生み出すことが出来たと思います。 たとえ夢がなくても、少しでもいいから将来について興味をもち、考えを変えてみてみようと思いました。 他人や他人と自分との価値観の違いに気づき認めた上で、自分から積極的に行動しようという意識が変化しました。
5	自己理解の深まり	14	自己理解の必要性を知る	6	自分に自信が持てるように、もっと自分のことを知ろうと思った。 一番印象的だった言葉は「自分を知ること」。今までの自分にはない能力をこの授業を通して学ぶことができた。 今回の受講を受け、自分のできることはなにか、そしてそのことをいかに生かせる仕事はどんなものがあるのかを知ることが大切だと思いました。
				8	これまで、将来にどんなことをしたいかというだけ考えていたが、今日の受講でその間の過程が抜けていることがわかった。その間に抜けていたものの重要性を知り、なぜ、これまでやりたいことがはっきりしなかったのかという理由を見つけることができた。これからどう生きていくかをしっかり考えていきたいと思った。 これからの自分がどの力をつけていかなくてはならないのかがわかった。自分の知識不足を実感した。知らないことがたくさんあるので人からきいたりしたいと思った。 自分の将来のことは、今まで自分に自信がなかったため、他人まかせになっていたため、自分に何ができるのかを自分自身で判断していきたいです。
		具体的な自己理解		6	自分に自信が持てるように、もっと自分のことを知ろうと思った。 一番印象的だった言葉は「自分を知ること」。今までの自分にはない能力をこの授業を通して学ぶことができた。 今回の受講を受け、自分のできることはなにか、そしてそのことをいかに生かせる仕事はどんなものがあるのかを知ることが大切だと思いました。
				8	これまで、将来にどんなことをしたいかというだけ考えていたが、今日の受講でその間の過程が抜けていることがわかった。その間に抜けていたものの重要性を知り、なぜ、これまでやりたいことがはっきりしなかったのかという理由を見つけることができた。これからどう生きていくかをしっかり考えていきたいと思った。 これからの自分がどの力をつけていかなくてはならないのかがわかった。自分の知識不足を実感した。知らないことがたくさんあるので人からきいたりしたいと思った。 自分の将来のことは、今まで自分に自信がなかったため、他人まかせになっていたため、自分に何ができるのかを自分自身で判断していきたいです。
6	考えの深まり	12	よく考えた	4	自分から動く、考えることが多かったため、頭の中につよく残りました。 今まで考えたことのない考え方をすることができ、とても良い機会になりました。 「キャリア」の本当の意味が分かって、将来の自分を見つめることが出来た。 話を聞き終わった後は、色々な視点から自分の将来と、本当にやりたいことを見つめることができた。 人のことを考えることは簡単でも、自分、相手、周り、すべてのことを考えて生きることがとても難しいと思う。今からの社会にはこれができる人材を必要としているのではと思った。 教師というものが自分にとって天職なのか、今日の講義を聞いて少しわからなくなってきた。なぜ、教師になりたいと思ったのかなど、もう一度しっかり考えたい。 今、自分は何をしたいのか、周りからは何を求められているのか、それを知り、バランスよく答えたいことが大切だと分かった。高校3年間をどう使っていくかを改めて考え直さないと、だなと思った。
				8	話を聞き終わった後は、色々な視点から自分の将来と、本当にやりたいことを見つめることができた。 人のことを考えることは簡単でも、自分、相手、周り、すべてのことを考えて生きることがとても難しいと思う。今からの社会にはこれができる人材を必要としているのではと思った。 教師というものが自分にとって天職なのか、今日の講義を聞いて少しわからなくなってきた。なぜ、教師になりたいと思ったのかなど、もう一度しっかり考えたい。 今、自分は何をしたいのか、周りからは何を求められているのか、それを知り、バランスよく答えたいことが大切だと分かった。高校3年間をどう使っていくかを改めて考え直さないと、だなと思った。
		自己への内省		4	自分から動く、考えることが多かったため、頭の中につよく残りました。 今まで考えたことのない考え方をすることができ、とても良い機会になりました。 「キャリア」の本当の意味が分かって、将来の自分を見つめることが出来た。 話を聞き終わった後は、色々な視点から自分の将来と、本当にやりたいことを見つめることができた。 人のことを考えることは簡単でも、自分、相手、周り、すべてのことを考えて生きることがとても難しいと思う。今からの社会にはこれができる人材を必要としているのではと思った。 教師というものが自分にとって天職なのか、今日の講義を聞いて少しわからなくなってきた。なぜ、教師になりたいと思ったのかなど、もう一度しっかり考えたい。 今、自分は何をしたいのか、周りからは何を求められているのか、それを知り、バランスよく答えたいことが大切だと分かった。高校3年間をどう使っていくかを改めて考え直さないと、だなと思った。
				8	話を聞き終わった後は、色々な視点から自分の将来と、本当にやりたいことを見つめることができた。 人のことを考えることは簡単でも、自分、相手、周り、すべてのことを考えて生きることがとても難しいと思う。今からの社会にはこれができる人材を必要としているのではと思った。 教師というものが自分にとって天職なのか、今日の講義を聞いて少しわからなくなってきた。なぜ、教師になりたいと思ったのかなど、もう一度しっかり考えたい。 今、自分は何をしたいのか、周りからは何を求められているのか、それを知り、バランスよく答えたいことが大切だと分かった。高校3年間をどう使っていくかを改めて考え直さないと、だなと思った。
7	行動への意欲	7	行動への意欲	2	そして行動を起こそうとこの受講をきいて思った。 将来になりたい自分になれるように、今の内から努力をしたいと思います。
				5	今後は、自分の興味のある職について調べ、関心を深めようと思った。
		具体的な行動内容		2	実際に相手に話そうと思うとうまく話せずに困ってしまった。入試でも自分の事を正確に伝える力は必要だと思うので、もう少し自分について整理してみようと思った。 普段の生活においては、自分に自信を持ち、自分から積極的に物事に取り組んでいきたい。 もっと自分自身を知らないといけないと思ったので、「考えノート」でも作ってみようと思いました。
				4	今日は知らなかった人と話せて、聞く力や、話す力にとても自信がいた。とても楽しかった。
8	自信	6	資質・能力の向上	4	受講前は、人に何かを伝えることが苦手なままだったけど、受講中にグループワークやペアワークをしていくにつれて自分から話すことができるようになった。 多めのグループワークで知らない人と少しコミュニケーションもとれるようになって、自分が成長できている気がする。 自分が考えていた未来の決め方についてより細かい情報、知識を知ること、より上手に自分のすべき事が分かった気がする！
				2	自分の価値観を人の価値観と比べる必要はないと思った。人と違ってもその人はその人だと思えばいいと思った。 やはり将来のことは不安で、自分たちの代から入試も変わり、社会的な形式や技術などが急速に発達している今、自分のことは自分で決めなければならない。しかし、逆に考えれば、これは大きなチャンスである、将来の可能性を無限にまで広げてくれるかもしれない。
		認知の変容		4	だがもっと自然に人と話せるようになりたい 自分の意見をはっきりと主張することで、自分にできることや自分の存在意義を確認でき、周りにも認められてもらえるようになると思います。 私は他人と話し、コミュニケーションをとることが苦手なので、それをしっかりと克服していきたいと今回の授業を受けて思いました。 全てに関して思ったことは、コミュニケーションは大切だと分かりました。
				1	また、広い視野をもって物事を考えることが大切だと思った。 キャリアとはただ学歴とかだと思っていたけど、受講して、また視野が広がった。
9	客観視	2	視野を広げたい	1	自分が客観的に見ることは難しいことだと思うけれど、意識してやっていきたい。 これから社会に出て、生きていくうえで、自分がやりたいこと、自分がやらなければならないことを知るために、自分を客観的に見るようにしていきたいなと思った
				1	自分が客観的に見ることは難しいことだと思うけれど、意識してやっていきたい。 これから社会に出て、生きていくうえで、自分がやりたいこと、自分がやらなければならないことを知るために、自分を客観的に見るようにしていきたいなと思った
		客観視したい		2	自分が客観的に見ることは難しいことだと思うけれど、意識してやっていきたい。 これから社会に出て、生きていくうえで、自分がやりたいこと、自分がやらなければならないことを知るために、自分を客観的に見るようにしていきたいなと思った
				3	主体的に考え、行動していけるようにしたい。 今後の自分のことを決める際には、アドバイスとして受け止め、最後は自分の判断にまかせるようにしたいと思いました。また、職業を決める前には、「どのような役割が主となるか」などの情報を集め、しっかり自分が行えるものなのかを考えて、決めていきたいです。
10	主体性(自立心)	3	主体的に行動したい	2	このチャンスをのがさないためにも、計画を立て、自分で考え、それらを実行しようとする行動力を身につけたいと思った。 今までやっていたことも、なんとなくやるような気がする。将来のことを考えようと思う。
				2	高校に入学してから、学校でのキャリア学習など大学進学をより身近に感じると同時にこの道で間違っていないだろうか、いつか後悔するのではないかと、という不安もたくさんありました。ちょうど今受けた内容が自分に響くようなことがたくさんあって、自分らしくを身につけて、それだけではない考えだったり、でも誰かから言われた通りにするのではない、という自分なりの考えを身につけることが出来ました。 今まで将来について、不安だったが、周りの人も不安であると感じ、恐がっていたのは周りに負けてしまふと感じた。これからは、もう少し自分に自信をもってみたいと思った。
		不安への関与	不安軽減	2	このチャンスをのがさないためにも、計画を立て、自分で考え、それらを実行しようとする行動力を身につけたいと思った。 今までやっていたことも、なんとなくやるような気がする。将来のことを考えようと思う。
				2	高校に入学してから、学校でのキャリア学習など大学進学をより身近に感じると同時にこの道で間違っていないだろうか、いつか後悔するのではないかと、という不安もたくさんありました。ちょうど今受けた内容が自分に響くようなことがたくさんあって、自分らしくを身につけて、それだけではない考えだったり、でも誰かから言われた通りにするのではない、という自分なりの考えを身につけることが出来ました。 今まで将来について、不安だったが、周りの人も不安であると感じ、恐がっていたのは周りに負けてしまふと感じた。これからは、もう少し自分に自信をもってみたいと思った。
14	存在意義	1	自分の意見をはっきりと主張することで、自分にできることや自分の存在意義を確認でき、周りにも認められてもらえるようになると思います。		
	15	授業への評価	1	自分の意見をはっきりと主張することで、自分にできることや自分の存在意義を確認でき、周りにも認められてもらえるようになると思います。	
合計		127		127	

見える。

（２）他者との関わり（グループワーク）

〔他者との関わり（グループワーク）〕は、「周囲との関わり」１件、「グループ活動による成長」１２件、「個人の成長」６件の３つの小カテゴリーに分類された。「周囲との関わり」は、＜様々な学校の人と関わり、意見を交換できてよかった＞と、単に他者との関わりについての内容であった。「グループ活動による成長」は、＜関わりを持つことの重要性や自分とは違う意見を受け入れる面白さ、大切さも分かった＞、＜自分の意見、自分を主張していかなくてはならないなと思いました。さまざまな人の意見を聞き、刺激し合うというのもすばらしいことだなと思いました＞など、グループワークにより体得した成長感を具体的に表現している。「個人の成長」は、＜グループワークをすることが苦手で、あまり得意ではなかったが、いざ、グループワークをやってみると自分とは違う考えや同じような考え方があり、とてもおもしろく感じた＞、＜グループワークによってより理解が深まる。相手の意見を知れると思った。知らない人と話すことは難しいけど、自分の力になると思う＞など、苦手意識を克服することで資質・能力の向上の意識している。全体的にグループ活動による成長感が多かった。

（３）気づき

〔気づき〕は、「一般的な気づき」５件、「自己への気づき（授業の本質へ）」は１０件の２つの小カテゴリーに分類された。「一般的な気づき」は、＜もう一度、自分について将来について考えてみようと思うきっかけになった＞、＜職業選択へのはずみにもなり、ヒントにもなったと思う＞など、受講内容による一般的な気づきであった。「自己への気づき（授業の本質へ）」は、＜自分の将来についてぼんやりと考えてはいたが、今そのために具体的にしなくてはならないことができていなかったということに気がついた＞、＜自分たちの将来なので一人ひとりが自分の意見をもち将来について調べていくことが重要だとわかった。これからの生活の中でも、今あることをさらにのびし、また新しいことを身につけていき、それらをどのように生かしていくことが大切なのかをしっかりと考えていきたいと思いました。今度、大学や職業について調べていきたいと思います。自分のことについて一度見つめ直すとおもしろいと思いました。＞など、受講による気づきを自分自身の問題として捉え、より具体的な活動につなげようとしている。これは、教師が伝えたいことであり、授業の本質を理解したとも考えられる。全体的にこのような気づきを発展させた表現が多かった。

（４）考え方の変化

〔考え方の変化〕は、「授業前後の考え方の変化」８件、「具体的な変化の内容」６件の２つの小カテゴリーに分類された。「授業前後の考え方の変化」は、＜受講前と後で、キャリアの対する考え方が大きく変わった＞、＜自分の価値観や考え方、将来についてのとらえ方が変わった＞、＜前と後で重要だと思うことが明らかに変化していて驚いた＞など、授業前後で考え方が変化したという内容であった。これはOPPシート特有の表現であることが多く、堀²⁾の言う、メタ認知の育成が具体的に現れた、OPPA論の効果と考えられる。「具体的な変化の内容」は、＜自分が興味をもったことについて、調べ考えていたり、周囲と関わって行って、考えていくべきだと思うようになった＞、＜受講中や後で考えてみると、「しっかりとした目的」や、「自分にはないものを考える」といって、自分なりの「何となく」ではない考え方を生みだすことが出来たと思います＞、＜他人や他人と自分との価値観の違いに気づき認めた上で、自分から積極的に行動しようという意識が変化した＞など、具体的な意識や行動への変化を表現している。全体的に考え方の変化の方が多めだった。

（５）自己理解の深まり

〔自己理解の深まり〕は、「自己理解の必要性を知る」６件、「具体的な自己理解」８件の２つの小カテゴリーに分類された。「自己理解の必要性を知る」は、＜自分に自信が持てるように、もっと自

分のことを知ろうと思った>、<一番印象的だった言葉は「自分を知ること」。今までの自分になりたくない能力をこの授業を通して学ぶことができた>など、自分自身のことをもっと知る努力をしたいという内容であった。「具体的な自己理解」は、<これまで、将来にどんなことをしたいかということだけ考えていたが、今日の受講でその間の過程が抜けていることがわかった。その間に抜けていたものの重要性を知り、なぜ、これまでやりたいことがはっきりしなかったのかという理由を見つけることができた。これからどう生きていくかをしっかり考えていきたいと思った>、<これからの自分がどの力をつけていかななくてはならないのかがわかった。自分の知識不足を実感した。知らないことがたくさんあるので人からきいたりしたいと思った>など、自分自身の経験と照らし合わせ、何が問題で何をすればよいのかと具体的に変化の内容を表現している。全体的に具体的な自己理解の方が多かった。

(6) 考えの深まり

「考えの深まり」は、「よく考えた」4件、「自己への内省」8件の2つの小カテゴリーに分類された。「よく考えた」は、<自分から動く、考えることが多かったので、頭の中につよく残りました>、<今まで考えたことのない考え方をすることができ、とても良い機会になりました>など、キャリアについてよく考えたという感想であった。「自己への内省」は、<話を聞き終わった後は、色々な視点から自分の将来と、本当にやりたいことを見つめることができた>、<人のことを考えることは簡単でも、自分、相手、周り、すべてのことを考えて生きるとはとても難しいと思う。今からの社会にはこれができる人材を必要としているのではと思った>など、自分のこととして深く内省していることがわかるものであった。全体的に自己への内省に至る内容の方が多かった。

(7) 行動への意欲

「行動への意欲」は、「行動への意欲」2件、「具体的な行動内容」5件の2つの小カテゴリーに分類された。「行動への意欲」は、<行動を起こそうとこの受講をきいて思った>、<将来になりたい自分になれるように、今の内から努力をしたい>など、授業の内容を行動に移そうという内容である。「具体的な行動内容」は、<今後は、自分の興味のある職について調べ、関心を深めようと思った>、<もっと自分自身を知らないといけなかったと思ったので、「考えノート」でも作ってみようと思いました>など、行動の内容が具体的であり実際に行動化できそうな表現であった。全体的に具体的な行動内容の記述件数が多かった。

(8) 自信

「自信」は、「資質・能力の向上」4件、「認知の変容」2件の2つの小カテゴリーに分類された。「資質・能力の向上」は、<、聞く力や、話す力にとっても自信がついた>、<グループワークやペアワークをしていくにつれて自分から話すことができるようになった>、<知らない人と少しコミュニケーションもとれるようになって、自分が成長できている気がする>、<自分が考えていた未来の決め方についてより細かい情報、知識を知ること、より上手に自分のすべき事が分かった気がする！>など、自分の能力が向上したと感じている表現であった。「認知の変容」は、<自分の価値観を人の価値観と比べる必要はないと思った>、<自分のことは自分で決めなければならなくなっている。しかし、逆にとらえれば、これは大きなチャンスである、将来の可能性を無限にまで広げてくれるかもしれない>など、不安を抱えながらも、受講後にはその認知を置き換えようとしているのが分かる。全体的に資質や能力が向上したという表現が多かった。

(9) コミュニケーション力

「コミュニケーション力」は、「コミュニケーション力を上げたい」4件の1つの小カテゴリーであった。「コミュニケーション力を上げたい」は、<もっと自然に人とはなせるようになりたい>、<自分の意見をはっきりと主張することで、自分にできることや自分の存在意義を確認でき、周り

にも認められてもらえるようになると思います>、<私は他人と話し、コミュニケーションをとることが苦手なので、それをしっかりと克服していきたいと今回の授業を受けて思いました>など、自分のコミュニケーション力に問題を感じており、何とか向上させたい思いがある内容であった。

(10) 視野の広がり

〔視野の広がり〕は、「視野を広げたい」1件、「視野が広がった」1件の2つの小カテゴリーに分類された。「視野を広げたい」は、<また、広い視野をもって物事を考えることが大切だと思った>であり、視野を広げる必要性を感じているものであった。「視野が広がった」は、<キャリアとはただ学歴とかだと思っていたけど、受講して、また視野が広がった>のように、受講後に視野が広がったと感じていることがわかる表現であった。

(11) 客観視

〔客観視〕は、「客観視したい」の1つの小カテゴリーであった。「客観視したい」は、<自分を客観的に見ることは難しいことだと思うけれど、意識してやっていきたい>のように、自己を客観視することの必要性を感じているものであった。

(12) 主体性(自立心)

〔主体性(自立心)〕は、「主体的に行動したい」の1つの小カテゴリーであった。「主体的に行動したい」は、<主体的に考え、行動していけるようにしたい>、<しっかり自分が行えるものなのかを考えて、決めていきたいです>など、主体性獲得への希望であった。

(13) 不安への関与

〔不安への関与〕は、「ポジティブ思考」1件、「不安減少」1件の2つの小カテゴリーに分類された。「ポジティブ思考」は、<このチャンスをのがさないためにも、計画を立て、自分で考え、それらを実行しようとする行動力をみにつけたいと思った。>と、ピンチをチャンスとして捉えようとしているものであった。「不安減少」は、<不安もたくさんありました。(略)自分なりの考えを身につけることが出来ました>、<今まで将来について、不安だったが、周りの人も不安であること感じ、恐がっているのは周りに負けてしまうと感じた。これからは、もう少し自分に自信をもってみたいと思った>など、不安であるが、それを受け止めつつ自分を変えることで不安を解消できそうであるという内容であった。

(14) 存在意義

〔存在意義〕は、「存在意義」1件の1つの小カテゴリーであった。「存在意義」は、<自分の意見をはっきりと主張することで、自分にできることや自分の存在意義を確認でき、周りにも認められてもらえるようになると思います>と、自己主張をすることによって、仲間に認めてもらえることが自己の存在を自他ともに認めることになると考えていると思われる表現であった。グループ活動の経験からでた感想であろう。

(15) 授業への評価

〔授業への評価〕は、「授業への評価」の1件の1つの小カテゴリーであった。「授業への評価」は、<自分の中の価値観にうったえかけるような内容でとてもおもしろいと感じました>と、自分の内的な問題に触れたゆえの面白さを表現するものであった。

3-3 WebアンケートとOPPシートの内容比較

以上のように、WebアンケートとOPPシートの内容をカテゴリー分類した結果、小カテゴリー、中カテゴリーともに類似した標題が多いことに気づいた。これは、授業中のOPPシート記入と、授業後のWebアンケート入力に時間差がほとんどないためと推察され、想定内の結果であった。よって、記述件数の多さや内容をさらに詳しく分析することで、授業評価の現れ方に違いがあるのかを

検討した。

まず、Web アンケートと OPP シートの項目の出現数を比較し、小カテゴリーの内容のうち、記述内容に思考の深まりがあると判断された記述の件数の合計を、それぞれ算出した。その結果、Web アンケートの合計は118件であり、全体の61%であるのに対し、OPP シートの記述の合計は125件であり、全体の86%であった（表4）。具体的に表2と表3の出現件数と記述内容を比較すると、Web アンケートの記述内容には全体として浅い思考や内容が多く、OPP シートの記述内容には全体として深い内容が多かった。それぞれきっかけは同じであっても、Web アンケートでは、知識の修得や授業の楽しさなど表面的な内容が多く見られ、OPP シートでは、同様な項目でも、そこから深い思考に至っているものやや実際の行動に移そうとしている表現が多く見られた。また、授業の本質を理解しているかのような表現も見られた（例：「気づき」の「自己への気づき（授業の本質へ）」＜自分たちの将来なので一人ひとりが自分の意見をもち将来について調べていくことが重要だとわかった。これからの生活の中でも、今あることをさらにのばし、また新しいことを身につけていき、それらをどのように生かしていくことが大切なのかをしっかりと考えていきたいと思いました。今度、大学や職業について調べていきたいと思います。自分のことについて一度見つめ直すとおもしろいと思いました＞）。

また、表4を見ると、Web アンケートと OPP シートのカテゴリーには少ない数ではあるが、違いが見られた。それぞれに特徴のあるカテゴリーは、Web アンケートでは、「知識習得」、「楽しい学び」であり、OPP シートでは、「考え方の変化」、「行動への意欲」、「客観視」、「存在意義」である。つまり、Web アンケートの表現をまとめると、例えば「グループワークが楽しく、知らない情報も教えてもらって、キャリア形成について楽しく学べてとても良かった」というようなものになるであろう。一方、OPP シートの表現をまとめると、例えば「グループワークによって他者の意見を聞き考えが深まったし、自分と他者の価値観や考え方の違いも分かった。受講前後でこんなに自分の考えや価値観が変化したのは驚いた。今後は自分の成長のために〇〇を頑張ろう」というようなものになるであろう。この違いは、おそらく OPP シートの質問の文言の影響があるのではないかと考える。[考え方の変化]などは、「受講前・中・後を振り返って、何がどのように変わりましたか。そのこ

表4 Web アンケートと OPP シートの抽出数と内容の比較

Webアンケート				OPPシート記			
中カテゴリー	件数	小カテゴリー	件数 深い内容	中カテゴリー	件数	小カテゴリー	件数 深い内容
グループワーク	24	周囲との関わり	9	目標・願望	22	単純な願望	5
		グループ活動による成長	8			なりたい自分	7
		集団の中の個人の成長	7			具体的な活動	10 10
知識習得	16	知識の習得	10	他者との関わり	19	周囲との関わり	1
		知識から学びへ	6	(グループワーク)		グループ活動による成長	12 12
楽しい学び	15	授業の形態による楽しさ	13			個人の成長感	6 6
		意味のある楽しさ	2	気づき	15	一般的な気づき	5
目標・願望	15	行動への意欲	9			自己への気づき(授業の本質へ)	10 10
		自己理解への意欲	6			授業前後の考え方の変化	8
考えの深まり	13	よく考えた	8	考え方の変化	14	具体的な変化の内容	6 6
		考えを深めた	5	自己理解の深まり	15	自己理解の必要性を知る	7
自己理解	10	自己理解への気づき	6			具体的な自己理解	8 8
		積極的自己理解	4	考えの深まり	12	よく考えた	4
授業への評価	8	授業の意味を感じ得	5			自己への内省	8 8
		授業内容への共感	3	行動への意欲	7	行動への意欲	2
気づき	7	一般的な気づき	4			具体的な行動内容	5 5
		自己への気づき	3	自信	6	資質・能力の向上	4 4
将来のイメージ	4	将来を考える	2			認知の変容	2 2
		将来への見通し	2	コミュニケーション力	4	コミュニケーション力を上げたい	4 4
不安への関与	4	ポジティブ思考	2			視野を広げたい	1
		不安減少	2	視野の広がり	2	視野が広がった	1 1
コミュニケーション	3	コミュニケーション力の向上	3	客観視	2	客観視したい	2 2
自立	3	主体性の獲得期待	2	主体性(自立心)	3	主体的に行動したい	3 2
		自立性	1	不安への関与	4	ポジティブ思考	2 2
自信(自己効力感)	3	自己効力感の向上	3			不安減少	2 2
視野の広がり	2	視野が広がった	1	存在意義	1	存在意義	1 1
		視野を広げる行動	1	授業への評価	1	授業への評価	1 1
合計	127		118 61	合計	127		127 86
※件数は複数回答あり				※件数は複数回答なし			
52%				68%			

とについて、あなたはどのように思っていますか。考えたこと、感じたこと、感想など、何でも構いませんから自由に書いてください。」の質問があるために表現できたものであろう。

OPPシートには、学習者が学習の内容を振り返ると同時に、学習者自身の変化を改めて質問により問われることにより、学習後の自分自身を客観視することになり、変化した自分自身を認めたり感じたりすることで「驚き」となって表現されている。これが堀（2013）²⁾の言うメタ認知の育成であり、資質・能力の育成や自己効力感の向上につながるものである。90分1講義の授業でも、こうした効果が現れることが明らかになったことは、OPPA論の可能性の広がりを感じさせるものであった。

4 考察

高大連携授業において、高校生が、社会と自己との関わりを考え、現時点の自己を客観的に知ることにより、その先のキャリアへの意識につなげられることを目的とした。手法としてアクティブ・ラーニングを導入し、評価法としてOPPA論を使用した。また、事後のWebアンケートの内容も参考にしながら授業評価と内容の妥当性を検証した。その結果、WebアンケートとOPPシートから、類似したカテゴリーが抽出された。内容として、筆者が伝えたい内容と一致するものが多く、授業内容への評価は概ね得られたと考えられる。

一方、WebアンケートとOPPシートの記述内容を詳しく比較したところ、思考や内省の深まりに差がある表現が多く見られた。このことから、授業内容の検討は、それを問う質問の文言に注意しなければならないことが示された。今回のWebアンケートはプログラム全体の構成や満足度を問うものであって、授業評価を検証するものではなかった。調査の目的によって質問内容が異なるのは当然であろう。今回のWebアンケートとOPPシートの結果を単純に比較はできないが、授業担当者の必要とする情報を得るためにはOPPシートの方がより学習者の変化を把握することができると言えよう。

今回の授業では、1講義用のOPPシートを試作し使用したが、1回の授業でも学習者の中には変化を認知する者がいた。学習者の記述による自己評価は、今頭の中で起きていることの可視化であり、自己を客観視させ、内省に導く効果がある²⁾。これは、「客観視」という小カテゴリーがOPPシートにのみ現れていることから説明できる。このように、OPPシートの記述から、授業内容により認知や行動の変化が得られることが明らかになった。このことにより、OPPA論が1回の授業においても効果があることを確認できた点で有意義であった。

また、今回は、OPPシート裏面の、「授業に対して思ったこと考えたこと、自由に記述してください。」の欄への記述が大変多かった。そこには、現在抱えている個人の問題に対する悩みや不安が多く表現されていた。この自由に何でも書ける欄は、授業内容を越えた学習者の姿を見ることができ、そこから受講者の記述の根源をうかがい知ることにもできる。キャリアの授業のように個人の人生や心や思考の領域にまで入り込む授業では、受講中に起きた心の変化や葛藤、他者との関わりによって生じたものを、この欄で整理しようとしているとも推察される。生徒が他の欄よりもここに時間を割いて書いていたからである。1コマ15回の大学の授業における各欄への記述分量との違いが表れており、興味深い。1講義用OPPシートは、1コマ用OPPシートとは異なる効果を持つ可能性もある。

謝辞

この度、山梨県高大連携プロジェクトにおける授業の機会をくださいました、アドミッションセ

ンターの藤先生はじめ関係者の方々、授業に参加くださった高校生の皆さん、引率された先生方に心から御礼を申し上げます。

引用文献

- 1) 文部科学省 (2006). 小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引ー児童生徒一人一人の
勤労観、職業観を育てるためにー
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/070815/all.pdf
- 2) 堀哲夫 (2013). 教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価OPPA 東洋館出版社
- 3) 中央教育審議会 1999 初等中等教育と高等教育との接続の改善について (答申)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/991201.htm